

令和4年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺中学校

国語

問題内容

配点

出題の意図

一『たったひとつの「真実」なんてない』 森達也(筑摩書房)	40点	メディアからの情報を正しく選択することの重要性について、 筆者の考えを読み取る。
二『百貨の魔法』 村山早紀(ポプラ社)	45点	母の「愛情」に気づいていくサクラの心の変化を読み取る。
三『おとなになるってどんなこと?』 吉本ばなな(筑摩書房)	35点	「将来」や「自立」について考えることの意義を読み取る。

各問題講評

【書き取りについて】

●漢字の読みや意味を正確に覚えていない。同音同訓異義語に気をつけてほしい。

【三】問1(正答率60%)

「熱い」「預金」という誤答が目立った。

【文の構成】

●指示語に注意して、文脈をしっかり理解してほしい。

【一】問2(正答率66%)

多かった誤答【B】。しっかり比較して、正解にたどり着いて欲しかった。

問10(正答率40%)

多かった誤答(17)(18)。傍線部の「それは」、「メディアからの情報は人によってちがう」(17)(18)ということで、それを「頭にいれてほしい」のは、(1)にある「メディアが情報の選択をまちがえれば」「はくやあなたの世界観にまちがった要素が入ってしまう可能性がある」から。

【ことばの問題】

●文中での意味を理解できるようにしてほしい。

【一】問8(正答率50%)

意味を正しく覚えていない。(イ)・(ウ)という誤答が多かった。

【抜き出し問題】

●問われていることをしっかり理解したうえで、ぬき出しすることを一字一句まちがわないようにぬき出してほしい。

【一】問4(正答率75%)

「鳴き声」と具体的に書いている誤答が多く見られた。

問5(正答率60%)

多かった誤答「加工を無意識にやっている」・「四捨五入を常に行っている」。傍線部の「直感的」は「無意識」・「この作業」は指示語なので、前に書いてある「情報の要約」となるので、この二点をおさえた解答になる。

問6(正答率40%)

多かった誤答「わかりやすく整理する」。「プロデューサー」がもめている「もの」は何かという設問の意図を理解しないで答えている。

【二】問6・8(正答率80%)

正答率が高いのに誤字が多かった。注意してぬき出してほしい。

【三】問2(正答率35%)

「夢」を「どのようなこと」とらえているかという問いに対しての答ではない誤答が多かった。

問4(正答率20%)

何のためと問われているぬき出し問題なので、解答の最後は「～ため」となる。そして傍線部の「それは」「自分の積み上げてきたもの」でそれを生かすのは「将来やりたいことを探す」ため。

問6(正答率30%)

多かった誤答「外に行くこと～安心していたい」・「仕事だけ～しまうから」(最後から4行目) 問4と同様で 理由を問われているぬき出し問題なので、解答の最後は「～ため」となるが、しっかり読解ができていなかった。

【客観問題(選択肢)】

●比較的正答率は高かった。
以下、正答率の低かったもの。

【二】問3(正答率60%)

多かった誤答(ア)。「タグ」について述べられているのが30行以上後ろなのに、傍線部の近しく読んでいない。

問6(正答率20%)

多かった誤答(イ)。傍線部の前にある「慈しみをふくんだやさしい笑顔」に目が行き、傍線部にある「ひっそりと時が止まった」にふれていない、佐藤健吾は「古びたファイルの中にあるサクラの母親の注文の書類のこと」を覚えていた。

【三】問3(正答率30%)

多かった誤答(イ)。難しいことわざだが、良い意味のことわざを選ぶ事はできていた。後は「小さい時から」と「双葉より」を結びつけてしまった。

【記述問題】

●記述問題は、まず傍線部を正確に読み取り、問われていることが何かということとを正しく理解して解答することが大切です。本文をそのままぬき出して解答しないこと。

【一】問3(正答率40%)

「無意識に情報を要約している」という直前をぬき出してた。たとえ話を使った作者の意図「メディアだけではない～」までたどりついていない。

【二】問7(正答率60%)

「10年」という時差を表現できていなかった。「サクラが生まれた時の身長や体重」をサクラが10歳の時点で書いたということが伝わる書き方ができていない解答が多かった。文全体の主語と述語の関係をおさえた上で必要なことばを選んで書くということが忘れられているようである。

問11(正答率45%)

多かった誤答「みんなで会話している」・「内容を強調する」。サクラが「青い瞳」で、佐藤健吾が「流暢な英語」で話していることから、サクラが外国人であると読み取ってほしい。会話文であるが「」を使って、「(日本語)」と区別している。

次年度入試 アドバイス

今年度も出題傾向は変わっていません。本校では今後の大学入試改革を見据え、現代社会の問題に関わる文章を出題しています。小学生の話言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。普段から小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーボックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読み、表現力を身に付けてください。また、社会問題にも関心を持つことも大切です。新聞記事を読む習慣もつけてほしいと思います。長編も出題されますが、慣れることで早く正確に読めるようになります。

正しく解くためには小説、評論のジャンルにかかわらず、問題本文はもちろんですが、設問の読み取りは大切で、語彙力の有無は大きく作用します。求められていることを限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード・キーワードセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけてきます。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 【地理分野】 日本の工業	22点	伝統工業をはじめとして日本の工業を歴史的にとらえ、貿易・環境などいろいろな角度から工業を考えてみる。
2 【歴史分野】 日本の3地域の歴史	20点	社会科・歴史の授業でのグループ発表の内容を読み、3つの地域ごとの歴史を理解できているかを問うた。また、その地域の地理を結び付けて理解できているかを問うた。
3 【歴史分野】 日本と外国の関わり	16点	原始・古代から近代にかけて、日本と諸外国との関係を表した年表を題材に、世界史や地理的要素も含めて、重要事項の知識・理解を問うた。
4 【公民分野】 時事問題など	22点	2020年末～2021年までの日本や世界で起こったニュースをとりあげ、社会的な事象に関心をもっているかを見るときにも、政治分野の基礎知識を問うた。

各問題講評（具体的に）

- 問1では伝統工芸品の産地を問うた。県名を答えるのではなく、県の形から解答を導き出す問題のため、岡山県を広島県とするまちがいが目立った。問2は高度経済成長期に何があったのかという歴史的な問いで、阪神・淡路大震災は1990年代である。問3の中京工業地帯を表から探す問題であったが、豊田市など輸送機械工業多いことから機械工業が特に多いことから解答を見つけてほしい。問4ではアラブ首長国連邦の「首長」が抜けていたり、「邦」の漢字まちがいが見られた。問7では燃料電池自動車とハイブリッド車などの特性を正確に理解できていなかったのではと思われる。
- 問6を除き、選択式の問題であった。全体的に正答率が高かったが、できごとの時期・内容や、時代背景、道具の名称とその使用方法など、基本的な内容を、幅広く習得・理解しておく必要があり、通史でのみ歴史を学習した受験生はつまずく問題であろう。問10は地理分野の出題であった。基礎的な内容であったため正答率は高かった。歴史と地理の内容をしっかりと結び付け、相互に理解する力が求められる。問6では、島原一揆の原因を問うた。教科書にも記述がある基礎的な内容からの出題であったが、出題意図を読み取ることができなかった受験生は、何を書けばよいか思い浮かび難かったように思う。そのため、他の選択式問題に比べ、若干正答率が低かった。
- 原始・古代から近代にかけて、日本と諸外国との関係を表した年表を題材に、中国やヨーロッパの王朝名や国名、日本の外交政策や文化、世界の主な出来事について問うた。全体的に得点率は高かったが、問5・問8の正答率がやや低かった。とくに問5の正文選択問題は、受験生には難しかったようだ。教科書に掲載されている歴史用語そのものだけを覚えるのではなく、時期区分、内容・理由などについてもいっしょに理解し、活用できるよう心がけてほしい。
- 正答率は全般的には高かったが、問2のみは低かった。単に名前を覚えるだけでなく、mRNAワクチンがどのようなものか知ろうとする姿勢が欲しかった。問9も社会の事象（時事問題）の背景にあるもの（この場合は政治制度や法律・憲法）にも目を向けて、知識を深めて欲しかった。

次年度入試 アドバイス

1【地理分野】

単純に用語を暗記するだけでなく、その用語を説明できるような学習も必要です。また教科書や地図帳に載っているグラフや表は必ず見ておき、その中からどのような特徴があり、どのようなことが読み取れるかを考える習慣をつけてください。今回は県の形が出題されましたが、各都道府県の特徴を学習するときにも形なども見ておくといでしょう。

2【歴史分野】

まず歴史用語を、正確に漢字で書けるようにしなければなりません。その用語・できごと・人物が、いつの時代のものなのか、正確に把握する必要があります。さらに用語やできごとの内容、人物の業績などを正確に理解し、因果関係・背景など周辺の知識としっかり結びつけながら学習をしてほしい。また、教科書等に掲載されている写真などの資料を読み込み、ビジュアル的な理解に努めてほしい。歴史的なできごとが起こった場所は、しっかりと地図で位置を確認することも怠らないようにすること。

3【公民分野】

世間全般はコロナについての報道が多いが、それ以外のことも社会で起こっている出来事に目を向けてほしい。そして教科書で習った内容とその出来事を結び付けて考えること。その上で、内容だけでなく、背景にあるものやそれが影響を与える影響まで関心を向けてほしい。その際には、なるべく偏見を持たずに、多様な考えを持ってとらえる姿勢を持って欲しいと思う。

4【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習してもらいたい。その際には資料の読み取りや文章を読み内容を把握できる「読解力」が大切である。読んで用語を丸暗記するだけでなく、考える習慣を持ってほしい。社会の出来事に広く関心をもつことや、「なぜそのようなことが起こったのか」、「それによって、社会にどのような影響を与えたのか」という観点からも「暗記ではなく考える習慣」を身につけることが大切である。その上で、できればそれに対する自分の考えを持ち、表現できるようになればベストであろう。

算数

問題内容

配点

出題の意図

1.2. 計算・小問集合	28点	四則混合の基本計算が正確にできるか。 基本的な文章題が解けるか。
3. 平面図形	19点	円や正三角形や二等辺三角形などの基本図形の性質を用いて、 角の大きさ、図形の面積を求めることができるか。
4. 文章題(場合の数)	14点	最後から2回のさいころの目の出方で場合分けし、樹形図が かけるか。
5. 文章題(数の規則性)	19点	数の規則性を読み取ることができるか。
6. 立体(体積・表面積)	20点	指示通りの立体図形が想像できるか。
7. 速さ・時間(グラフの読み取り)	20点	グラフと位置関係の図をうまく結びつけて、それぞれの問いかけ に答えることができるか。

各問題講評

正答率(概算)

1. ①78% ②78% 2. ①77% ②77%
 3. ①ア90% イ90% ②65% 4. ①43% ②12%
 5. ①64% ②74% ③22% 6. ①65% ②45% ③23%
 7. ①65% ②イ34% オ13% ③2%

【講評】

- ①②は基本の計算です。いずれもよくできていました。
- ①の問題文は少し長いですがしっかりと読んで解いてほしい問題です。
②は条件に合う数をていねいに場合分けして1つの数を探り当てる
問題です。
①②ともよくできていました。
- 平面図形の問題です。
①△AECが正三角形、さらに△ADEが二等辺三角形であることを
みつけると、順に角度がわかります。
②△ADCが直角二等辺三角形で面積がわかっているの、(おう
ぎ形の半径)×(おうぎ形の半径)の値がわかります。△ABDは二等
辺三角形で、底辺をADとして頂点Bからの高さを考えれば、図の中
に角度が30°、90°、60°の直角三角形が見つかります。その辺の比が
1:2だから△ABDの面積が(おうぎ形の半径)×(おうぎ形の半径)の
値を含んで表され、面積が求まります。
- 場合分けの問題です。
①②いずれも、同じ数の目が出る最後から2回のさいころの目で場合
分け、樹形図を書いていきます。
②は場合が多くなりますが、①と同様に樹形図を書いていきます。
- 赤色以外のメダルが赤色のメダル何枚と交換したかを最初に考えて
おきます。途中からメダルの枚数の規則性が変わることに注意して
ください。
①は37枚を超えない枚数で割り、余りを同様に超えない枚数で割り、
これをくりかえします。
3回割って余り1だからメダルは銅、青、黄、赤色のメダルの4枚です。
②はやさしいですね。
③は金色のメダルと銀色のメダルを同じ人が持つことはありません。
だからAは金色のメダルBは銀色のメダルを持つ。216枚から72枚を
引いて144枚。144枚から118枚引いて26枚。Aの金色以外の2枚の
メダルを赤色に換算した枚数はBの銀色以外の2枚のメダルを赤に
換算した枚数より26枚少ない。ここから4枚のメダルの分け方がわか
ります。
- 例になっている図1、図2をもとに問題の意図を理解し①②③に用い

る。③は色が塗られた立方体が1つ増えるだけで立体が想像しにく
くなるので、正解率はよくなかった。

- 時間と角度のグラフと図1～図7を合わせながら考えていけばよいの
ですが、図7までたどり着くのに時間がかかったようです。たどり着いても
図1と図7の角度のずれが正確に求められていなければなりません。
元の位置にもどるには「ずれた角度」と360°との最小公倍数を考
えることで困る時間の何倍になるかがわかり、元の位置に最初にもど
る時間が求まります。
最後の問題を正解した人はごくわずかでした。でも、じっくり考えれば
できる興味深い問題だといえます。

次年度入試 アドバイス

毎年申し上げますが、計算力はすべての問題の基本であるから、
早く正確にできるように練習しておきましょう。

また、全体をながめ計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛
けて取り組んでおいてください。

合格点を取るために、計算問題は、落ち着いて計算し全問正解しまし
ょう。また、小問や、大問の①②は基礎的な問題が多いので、日頃から数多
く基礎を練習し、素早くそして確実に正解できるようにしておきましょう。

例年、後半の大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解
法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかりと読んで内容を
十分に理解した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイ
アグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるよう
、ふだんから思考力と試行力を養っておいてください。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、折り返したり、
対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養っておいてください。

立体については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体
が考えられるようにしたいものですが、複雑な場合は断面図や展開図
も描け、視覚化できるようにしておいてください。

本年度入試に関しては大問 1, 2, 3 のような定番の問題は素早く解け
るよう、十分に演習を重ね、確実に点数をとれるようにしておいてくだ
さい。7のような速さなどの応用問題ではグラフや図を読み取る力をつけ
ておいてください。また、問題にグラフがなくても自分でダイヤグラムやグ
ラフを描いて視覚化する練習もしておきましょう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、難問・奇問(特に、小学校
の学習指導要領の内容を超える分野)ばかりを練習する必要はありません。
標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強
の姿勢が大切です。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 物質の密度と量関係

20点

プラスチックを題材に、データ(グラフ)から体積と重さの関係(=密度)や物質の変化の量関係を考える力をはかった。

2 星の動きと月の見え方

20点

星座の日周運動が地球の自転が原因であることを、しっかり理解できているかを問うと同時に、地球そのものを俯瞰してみる力もためした。

3 動物の行動

20点

動物の行動には、生得的行動と学習による行動がある。生得的行動である鳥の渡りと、タコの学習行動について、実験結果から考察する力を問うた。

4 面上における小物体の運動

20点

面上における物体の運動を素材に、物理現象の規則性を理解し、規則、法則を元に思考する力を問うた。問題前半においてはもっぱら定性的な振る舞いを規則性から思考する力を問うた。また、問題後半では実験的な設定の中で、科学的に推論する力、法則を活用する力を問うた。

各問題講評

- (1)、(2)、(3)はよくできていた。
(4)は、計算はできたが、解答方法の指示(桁数)を読み飛ばしたと思われる誤りが目立った。
(6)は、二酸化炭素の発生する実験操作の説明や図表から、それぞれのピーカーの反応後の状態を考えて、問いに答えることが求められており、やや難しかったと思われる。
- (5)は、星が昇っていく角度から緯度を考える問題で、赤道[緯度0度]での星の動きと比較して考えられたら35度という答えになるが、55度という答えが多かった。
(6)の問題は星の進行方向とABの角度は変わらないことから西の空での様子を考えれば70度という答えに至るが、出来ているものはほとんどいかなかった。
その他の問題は比較的よくできていた。
- (1)、(2)以外は、問題文から実験の意図や内容を正しく理解したうえで、実験結果を表した図やグラフを考察する力が要求される。
(6)の①～③がすべて正解、あるいは、(8)で正解2選択ができていた受験生が極めて少なかったことは、理科の学習過程において、「仮説をもとにした情報の対応付けと選択」の習得が不十分であることが窺える。
- 物体の運動に関しての出題であるが、等速直線運動の式を用いた計算等、公式に数を入れるだけの単純な計算の正答率は高かった。反面、計算で結論を出すことが困難な問を、運動の性質をふまえた上で定性的に考察するような問(2)は、正答率が低かった。さらに、先に述べられた運動の性質や法則性を活用して、思考し、計算する問題後半部の間では正答率はきわめて低かった。

次年度入試 アドバイス

- グラフや表が与えられている場合、それらを利用して答えられるのではないかと考えてみる。計算だけに頼って解くよりも、速く簡単に答えられることが多い。
- 星の日周運動や年周運動の原因を理解し、実際に星座が時間や季節とともにどのように天球上を動くのかイメージできるようにすること。立体から必要な部分を切り取り、自分の使いやすい向きに直して図示できるよう訓練するのもよい。
- 初見の問題が出たらチャンスだと思ってほしい。問題文やデータから正解を導き出すことができるからである。日頃から実験題を解く際は、結論の根拠となる実験結果はどれなのか意識すること。
- 限られた時間内に、問題で述べられている規則性や法則を咀嚼、理解し、与えられた状況に的確に活用できるよう、日頃から能動的に現象の法則性に注意し、解析を行うおうとする姿勢をもって学習に望んで欲しい。